

恵泉女学園
「花と平和のミュージアム」ニュースレター
創刊号

創刊によせて

学園長・花と平和のミュージアム館長 松下俱子

このたび、「花と平和のミュージアム ニュースレター」が発行されるはこびとなりましたことをうれしく思っております。2009年に創立80周年を迎えた恵泉女学園は、三つの記念事業を計画いたしました。その一つが「花と平和のミュージアムの設置」でした。大学内に設けられた計画委員会による検討（2007年～2011年）、学園全体規模の委員会に移しての検討（2011年～2014年）を重ねて、昨2014年11月8日に、多摩キャンパスで開館のセレモニーを行ったところです。このミュージアムの展示品の中心は、創立から86年間、恵泉教育の礎としての役割を果たしてきた施設、設備、道具、書籍、研究資料類です。それらを博物館という建物に集めるのではなく、本来置かれている場所に展示していこうという考え方のミュージアムです。現在、ミュージアムのコア（中心部）を多摩キャンパスとし、世田谷キャンパス、恵泉園芸センター、恵泉蓼科ガーデンをサテライト（衛星）と位置付けて運営しています。ミュージアムコレクション（展示物）の多くは学園史料室を擁している世田谷キャンパスにあります。開館から一年、常設展示、要請に応じての特別展示、ミュージアムツアーを行ってきました。多くの方々のご理解、80周年記念事業募金等によるご支援を戴いて歩みを始めたこの一年でした。一歩踏み出したばかりのミュージアムですが、設置の目的、基本的な考えに沿っての実働を通しての、成長するミュージアムでありたいと願っています。

ミュージアムの目的

恵泉女学園は神と人ともに仕え、平和のために貢献できる女性の育成を使命としてきました。花と平和のミュージアムは、その礎となってきた教育資源の継承、研究・教育成果の発信、広く平和を求める人たちの交流拠点となることを目指します。そのために、学園内の諸施設、他機関、地域とのネットワーク形成を図り、学生/生徒と教職員、市民が共に学び、協力して運営することで、ミュージアムを地域の新たな「たからもの」として育てていきます。（この目的に基づく「基本的な考え方」をⅠ～Ⅵとして示します。）

Ⅰ
創立者が
掲げ、育ててきた
恵泉スピリットを学ぶ場
とします。

Ⅱ
恵泉女学園が
蓄積してきた特別な学び
「聖書、国際、園芸」を基にした
恵泉教育の成果を創造的に
展示するとともに、
調査・研究を深めます。

Ⅲ
学園内の諸施設、
他機関とのネットワークの形成を
図り、地域社会への貢献を視野に
入れながら、成長していくエコ
ミュージアムとします。

「花と平和のミュージアム」開館からこの一年

2014年

11月8日 ミュージアム開館記念展示
「古典籍等展示」「福島菊次郎写真展」「河井道展示」
古典籍「本草図譜」のクリアファイルを作成
「河井道年譜」作成・設置（於 南野校舎内）

2015年

2月1日-3月23日 古典籍移動展示（於 世田谷キャンパス）
2月20日-3月23日 「福島菊次郎写真展」移動展示
（於 世田谷キャンパス）
2月28日-3月11日, 3月14日-3月29日
「ツバキとザザンカー-石井勇義と牧野富太郎の友情」展
（練馬区立牧野記念庭園記念館）に『実際園芸』を出品協力
3月21日 「小さな民からODA軍事を考える」
「村井吉敬歿後2周年記念シンポジウム」（共催）
故村井吉敬氏所蔵資料の一部公開（整理中）
5月20日 内海愛子名誉教授より村井吉敬関係資料一式寄贈
5月21日 南野バラ園オープニング記念講演会
「野生種から現代バラへの道のり」（野村和子氏）
5月30日 スプリングフェスティバル
「国策に翻弄された人々」展
「恵泉園芸センター60年の歩み」展
「蓼科ガーデンスライドショー」
6月4日-6月16日 「国策に翻弄された人々」移動展
（於 世田谷キャンパス）
6月19日-7月31日 古典籍『貝千種』移動展
（於 世田谷キャンパス）
11月7日 「わたしの、終わらない旅」恵泉祭特別企画映画
上映会
「福島菊次郎写真展」（被爆者関連のテーマ）

Ⅳ
恵泉女学園の生徒・学生に、
学習、実習、研究等を通じて、
ミュージアムの活動に関与
する機会を提供します。

Ⅴ
幅広い世代に向けて、
体験学習、公開講座等を通し、
社会教育や生涯教育の機会を
提供します。

Ⅵ
既存の資源と
地域の資源を最大限に活用
した柔軟な企画・展示を
通して、エコロジカルな
ミュージアムを目指します。

「福島菊次郎さん追悼」

高橋清貴

「反権力の写真家」「反骨の報道写真家」など様々に形容される写真家、福島菊次郎さんが9月24日、山口県柳井の自宅で永眠されました。権力の嘘を暴くことをライフワークとしてきた福島さん。お会いしてみれば、体重37kgの細い体を杖で支え、飄々と軽口を叩く好々爺です。本人曰く、この一見して「人畜無害」な風貌が、相手の警戒心を解かせ、原爆被害者の人体資料を集めたABCC(原爆障害調査委員会)や自衛隊の武器工場に易々と入り、嘘を暴くことができたのだとか。

花と平和のミュージアムでは、福島さんの貴重な写真パネル約300点を保管しています。これまでミュージアム企画として、2回ほど平和をテーマとしたイベントと連動させて公開展示してきました。5月のスプリング・フェスティバルでは「三里塚闘争」を撮った写真を満蒙開拓民の帰国後の歴史と重ねて、11月の恵泉祭では福島さんが広島原爆の被害の実態を被害者に16年間寄り沿って撮った「ピカドン」を、一人の市民として反原発を訴え続けた坂田静子さん(恵泉卒業生)の娘さん坂田雅子監督が撮ったドキュメンタリー映画「わたしの、終わらない旅」の上映会に合わせた展示です。

この年始、福島さんが多摩に来られた時、ゆっくりとお話しをする機会がありました。その時、平和に力を入れている恵泉の教育理念に強く共感してくれて、カメラから資料まですべてを寄贈できたらありがたいとまで仰ってくださいました。平和は、それを不断に考え、求め続け、世代を超えて伝えていこうとする姿勢が重要です。その意味で大学と写真家の共通点があるのかもしれませんが。ミュージアムとしても、これからも学生や地域の人々と平和について考える場を提供していきたいと考えています。権力を疑う目と平和を希める心の大切さを教えてくれる貴重な資料を授けてくれた福島菊次郎さんに改めて感謝し、安らかな眠りをお祈りしたいと思います。

(国際社会学科教員)

★映画上映会(2015.11.7.)

恵泉祭では「花と平和のミュージアム」特別企画によるドキュメンタリー映画「わたしの、終わらない旅」を上映。坂田雅子監督と上村英明教授のトークタイムでは、参加者との活気ある質疑応答がありました。



Takaramono Close up!

★有形・無形の恵泉の「たからもの」に光を当てていく紙上ミュージアム「保存版」のコーナーです。



貝千種 一



貝千種 二

『貝千種』(かいちぐさ) 平瀬與一郎編著
1914(大正3)年1号・1915(大正4)年2号発行

『貝千種』は日本沿岸で見られるほとんどの貝類を網羅した、日本初の彩色木版図鑑です。1914(大正3)年から1921(大正10)年までの間に一〜四号の四冊が発行されました。当初一号につき百種ずつ、合計千種を載せる予定でしたが、経済的な理由により四号(四百種)で終わっています。恵泉女学園が所蔵するのはこのうち一号と二号です。

平瀬與一郎は、日本の自然の魅力的な美しさを表現するには、江戸時代から伝わる浮世絵の技法＝多色刷りの木版画(錦絵)の技術が最も適切であると考えました。『貝千種』は伝統的な「一枚製本」で表紙は絹を使用しています。そして貝の配列は分類より美術的な並びを優先しました。

この図鑑は海外でも評価され、ロンドン大英博物館の自然史部門担当者は、「日本の貝類の権威ある目録であり、美しいだけでなく、貝類学図鑑として他に例を見ない描写である」と紹介しています。

恵泉女学園の『貝千種』は旧園芸短期大学図書館の蔵書だったもので、現在は花と平和のミュージアム所蔵です。

(史料室運営委員 森恵)

★移動展示(2015.6.19-7.31)

『貝千種』は世田谷キャンパスのメディアセンター内に運ばれ、展示されました。(本の中の貝の実物と一緒に並べられています)

